

# ルソー Rousseau, Jean-Jacques 1712 ~ 1778

フランスの思想家・作家。1712年スイスのジュネーヴに時計職人の次男として生まれる。家庭的には恵まれなかった彼は、徒弟奉公を終えぬまま15歳でジュネーヴを出奔。放浪生活を経て、アヌシーで13歳年長のヴァラン夫人と出会い、彼女の庇護のもとで自己形成を行った。音楽家を夢見た彼は、1742年パリに出、ヴォルテール、ディドロなどと知り合い、サロンに出入りした。1750年、『学問芸術論』がアカデミー懸賞論文に当選、一躍思想界の寵児となった。

その後、ルソーの思想の根底に位置する『人間不平等起源論』(1755)を書くが、同時にヴォルテールや百科全書派と論争し対立は決定的となる。45歳の時、モンモランシーに居を定め、恋愛小説『新エロイズ』、政治制度論の『社会契約論』、教育論である『エミール』の三部作を発表。しかしながら、『エミール』の内容に対しパリ高等法院が逮捕状を出したため、スイスへの亡命を余儀なくされた。

ジュネーヴでも『社会契約論』『エミール』が焚書宣言され各地を転々とするが、ストラスブールで英国の哲学者ヒュームの誘いによりロンドンに赴いた。その後、迫害妄想に陥ってパリに帰り、58歳のときに自伝『告白』をまとめた。晩年は『孤独な散歩者の夢想』を執筆するも未刊に終わった。1778年パリ郊外エルムノンヴィルで67歳の波乱の生涯を閉じた。

## Great Books 28 社会契約論(Du contrat social)

「政治的権利の諸原理(principes du droit politique)」との副題があり、1762年に刊行された。全体は4編からなっており、「人間は生れながらにして自由であるが、しかしいたるところで鉄鎖につながれている。(L'homme est né libre, et partout il est dans les fers.)」という名句で始まる第1編は社会契約について、第2編は主権論、第3編は諸政体の理論的研究、第4編は政府論となっている。

ルソーは、国家権力の起源を自然法学者が認めていた強者の権利や国王に支配権を譲り渡す服従契約に対する批判を行ない、自由で平等な主体としての人間が集まって全員一致の約束による人民が形成した政治体を構想する。この約束が社会の基礎であり、正当な方法である社会契約なのである。これは人民が全員一致して自主・平等の立場で、一般意志(常に共通の利益をめざす全員共通の意志)を最高の指揮にゆだねて国家に全存在を与えるかわりに、自由で平等な市民として新しい存在を受けとることを意味する。このようにして人間は自然人から市民に、自然状態は社会状態に移行し、人民の自由な自発的な意志により国家が成立し、そこで人民は主権者となる。主権者が有する社会的自由は、一般意志の制約を受けるものの、自然的自由はより次元の高い道徳的自由に昇華している。それ故、主権は分割も譲渡されないとの理論が導かれ、人民主権と直接民主制に結びつくのである。

人民主権と直接民主制の原理書とされる本書は、同時代人からはまったく無視された。後年、フランス革命のなかジャコバン派によって評価されることになり、「人権宣言」や革命憲法に影響を与えた。そして、19世紀以降は、近代国民国家の民主主義原理の理論的支柱となった。

## Great Books 29 エミール(Emile, ou de L'Education)

序文と5編から成る。原題は『エミールまたは教育について』で、市民や社会状態のイメージを作り上げた『社会契約論』と同じ1762年に刊行された。孤児エミールを主人公にし、その誕生から理想の伴侶ソフィーを得て彼女がエミールの子を宿すまでの成長を、語り手である教師の「わたし」が、子供を独立した一人の人格として考察する。本書においてルソーは、新しい人間の理念の構築を目指した人間形成の理論的探求を行った。ここでいう教育とは、『人間不平等起源論』で提示された「自然人」を実現させるために人間を自然の歩みに従わせるもので、既存の社会状態のなかで人間の本源的善性を如何に守るかが主題となっている。

ルソーは、第2編において、3歳から12歳までの時期を「人間でも動物でもない、まさに子供だ」と記し、この子供像によって「子供の発見者」といわれるようになった。また、彼の教育方法は、知育教育を避け、全体的な人間教育、体育、品性の陶冶などを重視したことから、先行する思想家モンテーニュとの関連を指摘されている。

## ◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 エミ - ル 上・中・下(岩波文庫ワイド版) / 今野一雄(訳)  
岩波書店 1994年刊 <371CC / 213 / 1~3>
- 📖 エミ - ル(西洋の教育思想) / 永杉喜輔(ほか訳)  
玉川大学出版部 1982年刊 571p <F5 / R14-2> 資料番号 12244331
- 📖 ルソ - 全集 第6~7巻 / 樋口謹一(ほか訳)  
白水社 1980~1982年刊 <135.4 / 17 / 6~7> 資料番号 10220747, 10220754
- 📖 ルソ - 全集 第5巻 / 浜名優美(ほか訳)  
白水社 1979年刊 511p <135.4 / 17 / 5> 資料番号 10220739  
\* 社会契約論 - または政治的権利の諸原理・社会契約論または共和国の形態についての試論(初稿)  
/ 作田啓一(訳)
- 📖 世界の名著 30 ルソー / 平岡昇(編)  
中央公論社 1966年刊 562p <080 / 5 / 30> 資料番号 12784476  
\* 社会契約論 / 井上幸治(訳), エミール / 戸部松実(訳)
- 📖 社会契約論(岩波文庫) / 桑原武夫, 前川貞次郎(訳)  
岩波書店 1954年刊 236, 10p <131 / Ⅱ> 資料番号 12255618
- 📖 Great books of the Western World vol.38 Montesquieu. Rousseau / Robert Maynard  
Hutchins(ed)  
Encyclopaedia Britannica 1989年刊 439p <080 / G / 38> 資料番号 20257531  
\* 社会契約論
- 📖 Du contrat social (Classique Garnier)  
Garnier Frères 1969年刊 506p <Y135.34 / 2> 資料番号 21540471  
\* 社会契約論

## ◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 ジャン=ジャック・ルソ - (政治思想研究叢書) / 市川慎一(編著)  
早稲田大学出版部 1993年刊 283p <135.3BB / 111> 資料番号 20585956
- 📖 ジャン=ジャック・ルソ - 論 / 吉岡知哉(著)  
東京大学出版会 1988年刊 268p <135.4X / 34> 資料番号 20053005
- 📖 人類の知的遺産 40 ルソー / 福田歓一(著)  
講談社 1986年刊 278p <280.8K / 13 / 40> 資料番号 10497451
- 📖 ルソ - とその時代の政治学(<法と国家>翻訳叢書) / R. ドラテ(著) 西嶋法友(訳)  
九州大学出版会 1986年刊 558p <311.23T / 64> 資料番号 12392973
- 📖 甦るルソ - (岩波現代選書) / 中川久定(著)  
岩波書店 1983年刊 333p <135.4R / 30> 資料番号 12306163
- 📖 ジャン=ジャック・ルソ - (叢書・ユニベルシタス)  
/ ベルンハルト グレトウイゼン(著) 小池健男(訳)  
法政大学出版局 1978年刊 387p <135.4J / 15> 資料番号 10220671
- 📖 ジャン=ジャック・ルソ - 問題 / E. カッシ - ラ - (著) 生松敬三(訳)  
みすず書房 1974年刊 110p <135.4F / 13> 資料番号 10220648
- 📖 J・J・ルソ - 透明と障害 / ジャン・スタロバンスキ - (著) 松本勤(訳)  
思索社 1973年刊 508p <135.4D / 11> 資料番号 10220606